【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】令和6年5月24日(2024.5.24)

【国際公開番号】WO2023/047649
【出願番号】特願2023-549346(P2023-549346)
【国際特許分類】
G05G 1/015(2008.04)
G05G 1/10(2006.01)
G05G 5/05(2006.01)
G05G 5/03(2008.04)
H01H 19/02(2006.01)
G06F 3/03(2006.01)
【FI】
G05G 1/015 A
G05G 1/10 B
G05G 5/05
G05G 5/03 B
H01H 19/02 F
G06F 3/03 400F

【手続補正書】
【提出日】令和6年2月29日(2024.2.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
回転中心軸の軸周りに回転可能な環状の操作部材と、
前記操作部材の内側に配置されるベース部材と、
前記操作部材の回転方向が押圧方向となる向きで前記ベース部材に設置され、前記操作部材の回転により押圧されるスイッチと、
前記操作部材を弾性力によって初期位置に復帰させる復帰機構と
を備え、
前記復帰機構は、
前記操作部材の内側において、前記回転中心軸を間に挟んで、前記スイッチが設けられている側とは反対側に設けられている
ことを特徴とする回転検出装置。
【請求項２】
前記操作部材は、
前記回転中心軸の軸周りの両方向に回転可能であり、
前記回転検出装置は、
前記操作部材の前記両方向の回転を検出可能な一対の前記スイッチを備える
ことを特徴とする請求項１に記載の回転検出装置。
【請求項３】
前記一対のスイッチは、互いに対向して配置されている
ことを特徴とする請求項２に記載の回転検出装置。
【請求項４】

前記操作部材は、
当該操作部材の内側、且つ、前記一対のスイッチの間に、前記一対のスイッチを押圧可能な突起部を有する
ことを特徴とする請求項３に記載の回転検出装置。
【請求項５】
前記操作部材は、
前記回転中心軸の軸周りの一の方向に回転可能であり、
前記回転検出装置は、
前記操作部材の前記一の方向の回転を検出可能な一の前記スイッチを備える
ことを特徴とする請求項１に記載の回転検出装置。
【請求項６】
前記復帰機構は、
前記操作部材の内側に配置され、前記回転中心軸の軸方向を向いたカム山を有するカム部材と、
前記カム部材を前記回転中心軸の軸方向に付勢する弾性部材と、
前記操作部材の内側において、前記操作部材と一体に、且つ、前記カム部材の前記カム山と対向して設けられ、前記カム山が当接することによって前記操作部材を初期位置に復帰させる当接部と
を有することを特徴とする請求項１に記載の回転検出装置。
【請求項７】
前記スイッチは、
クリック操作感を呈示可能である
ことを特徴とする請求項１から６のいずれか一項に記載の回転検出装置。
【請求項８】
スタイラスペンの胴体部の末端部に設置可能である
ことを特徴とする請求項１から７のいずれか一項に記載の回転検出装置。
【請求項９】
前記操作部材の外径は、前記スタイラスペンの前記胴体部の外径とほぼ等しい
ことを特徴とする請求項８に記載の回転検出装置。
【請求項１０】
前記操作部材は、
外表面に滑り止め加工がなされている
ことを特徴とする請求項１から９のいずれか一項に記載の回転検出装置。
【請求項１１】
胴体部と、
胴体部の末端部に設置された、請求項１から１０のいずれか一項に記載の回転検出装置と
を備えることを特徴とするスタイラスペン。